

科目名	高次脳機能障害学Ⅱ						授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年	前期	
【授業の目的・ねらい】 患者さんに検査を実施していくうえでの心得を身につける 各検査を手順どおりに実施できる。検査結果を元に基本的な評価を行うことができる											
【実務者経験】 言語聴覚士として池田病院に勤務、高次脳機能障害のリハビリテーションに従事経験。											
【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害についてより具体的な内容を理解し、評価法についての基礎知識と検査バッテリーおよびそれらの実施法を修得する											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各検査が何のために行うのかを理解し、手順どおりの実施ができる。また、結果と高次脳機能障害を結び付けて考えることができる。患者さんに対する声かけや態度などを身につけることができる											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	検査の目的や取り組み方について説明できる										
2	認知機能の検査について実施と説明ができる（HDS-R, MMSE, MoCA-J）										
3	知能検査について実施と説明ができる（WA I S）										
4	知能検査について実施と説明ができる（RCPM, コース）										
5	遂行機能の検査について実施と説明ができる（B A D S）										
6	記憶の検査について実施と説明ができる（三宅式、S-PA、RBPM, BVRT）										
7	記憶の検査について実施と説明ができる（WMS-R）										
8	失行、失認の検査について実施と説明ができる										
9	前頭葉機能の検査についての実施と説明ができる										
10	視空間認知の検査について実施と説明ができる										
11	注意機能の検査について実施と説明ができる										
12	情報収集、スクリーニング検査について説明できる										
13	検査結果より評価を実施できる										
14	報告書の作成ができる①										
15	報告書の作成ができる②										
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 高次脳機能障害ポケットマニュアル 高次脳機能障害学 1年次のプリント、ノート、検査マニュアルの配布物など											
【準備学習・時間外学習】 1年次に学習した内容を復習してください 実施した検査については、各自道具を使用しながら手順を確認してください。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 定期試験50点、実技試験50点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。											